

さつま狂句 (有明町さつま狂句同好会)

兼題 「好っ」 好っなどを 飲めち言なかい 魔王は柵

小蓬原 忠則

(評) 夕刻、先覚に呼ばれたので、弾む心で表敬訪問した。早速「好っなどを飲め」とのお言葉に甘えて、ほくそ笑んだのは束の間。あの「魔王」は遂に柵から下りてこなかった。

兼題 「狼狽こ」 万年曆も 狼狽こ通えちよい 異常気象

畑山 敏昭

(評) 方言で「万年曆(まんによん)」と呼ばれる物織りの人が、今年の異常気象情報発信に慌てているとの設定。滑稽な表現だが農家へは敏感に響く。だが、万年曆も人の子、確報を祈る。

兼題 「年賀」 予科練も 来んごつなつた 戦友の年賀状

丸目 南兵衛

(評) 先の大戦後期、血氣盛んな少年は甲種飛行予科練習生に憧れた。幸か不幸か終戦となり戦友は全国に復員。そして戦後七十年、連綿と続いた賀状も年次減少、時代は変わった。

短歌 (松山南船短歌会)

卯月よりつづく喪の服掛けながしパリッとひとりの西瓜割る真昼
網走の湖畔の宿をひた走る汽笛ひびけるロマンをのせて
収穫はコンバインにたのみ早早と息子は友とゴルフに行きぬ
へチマ食べ花オクラ食べ苦瓜も夏を切り切るわれの糧なり
枇杷の実は黄に充ち充ちて甘き香が五月の庭にただよいはじむ
露を置くプランター植えのブロッコリーおんぶバツタに葉は食はれたり
伝えたい教えない事色々をきかせたき子は近くににおらず
一滴の水も飲めない吾の横ポタポタ落ちる点滴見つむ
十回忌の嫁の墓前に二人立つわが目の高さに孫の肩あり
嫁の父母と再会願えど果し得ず受けしご恩を込める合掌
里芋の子芋が親芋にくつついて離すに苦勞「親っていいなあ」
暮れなすむ街の宙行く渡り鳥尖りすぎないV字を描く

畑 美佐子
前原 恭
永田ミツエ
野口 順子
石橋 道子
川添八重子
中島 昭
吉元ミチ子
大迫 鈴子
藤田ミチ子
山口 カツ
高倉 律子

俳句 (ぎんなん俳句会)

万の木に万の新緑万の風
匂ひ鳥池の真中に声落す
走り出す初登校や春の風
花筏池の魚影を隠しけり
春深し歴史の眠る古代丘
堀の鯉でんぐり返って春の水
ふらここや心隠して漕いでをり
夕暮のブランコ風を友にして
城門は風の入口若葉燃え
目を絡め落花は夢の欠片とも

富山 達次
富山 茂子
吉村 万里
目黒 文恵
本村 光子
北川 雨水
刀坂由美子
今井 洋子
川上 豊
和田 洋文

文芸

Japanese Poem of 31 syllables
*Haiku Poem*Comic Haiku*

『志』・季・折・々

「志」の季、折、々、を、文芸、を、感じ、させ、
られる、もの、を、写真、で、紹介、します。
読者の、皆様、から、ご、質問、の、ご、提供、も、
お待ちしております。

【今月の主役・満開の白萩】